

**市民の憩いの場であり生物多様性に富んだ野火止緑道の環境を次の世代に残してゆくため、  
早期の【樹木を保全する管理】の実現を求めます。**

**趣旨**

野火止緑道は平林寺西側を流れる野火止用水に沿った遊歩道です。天然記念物である平林寺境内林の林縁と江戸時代開削当時の工法を残す素掘りの用水沿いという好条件に恵まれた当該地域は、武蔵野の雑木林の面影を今に伝える、新座市内の野火止用水流域でも際立った生物多様性に富んだ区間です。

ところで緑道では古木となって枯死・倒木の恐れのある樹木が順次伐採されています。これは安全の確保のため必要なことです。しかし昨年、一昨年は倒木の恐れのないと思われる樹木や中低木に至るまでが根元から伐採されており、市によると、今のところ萌芽更新の予定も、実生苗の育成も行う予定はないとの事です。

このままでは野火止緑道から樹木が激減し現在の植生が失われてしまうことが危惧されます。

遊歩道である野火止緑道は、安全な通勤・通学コースとしてのみならず、ウォーキングコース、ジョギングコースとして人気があり、特に夏の涼しい緑蔭は、利用する市民の健康に大いに貢献していると考えられます。利用者の安全は第一ですが、同時に樹木の消失は利用者にとって大きな損失です。

また、樹木の消失による林床の変化は在来の植生を破壊し、多様な生物の生息する環境を損ないます。樹木は後からでも植えることができますが、中低木や下草も含めその地域固有の景観を形成してきた植生は、環境が変わることで失われ、再生は極めて困難です。

野火止緑道は、埼玉県の「緑の再生のための取り組み」で緑の保全区域として位置づけられています。また新座市は「野火止用水がもたらす歴史的・自然的環境は本市が誇る資源」<sup>(1)</sup>という認識のもと、「伐採を行った樹木についても一中略一後継樹木の植栽といった景観の回復が必要になってくる」<sup>(2)</sup>と述べています。

<sup>(1)</sup> 埼玉県指定史跡野火止用水保存活用計画（2023年）第4章P62 <sup>(2)</sup> 同計画第4章P60

**そのためにも【樹木を保全する管理】として『安全』と『保全』が両立するようバランスを取りつつ、伐採から再生へとつながる持続可能なシステムを実現していただくことを要望します。**

- i コナラ、クヌギをはじめ苗木の育成と現在萌芽更新可能な伐採樹の適正管理。
- ii 高木の他、中低木や下草を含めた多様な在来植物の保全および、用水の景観との調和が図られた適正な密度の調整や剪定等の管理。
- iii 上記管理を持続的に可能にする専門家アドバイザーの設置と市民ボランティア・サポーターの育成。

請願者住所： 新座市野火止 4-5-3 氏名： 峯崎なお子

お名前	ご住所



← 署名用紙にご記入いただいたたら、上記住所に郵送にてお送りいただくか、左QRコードのリンク「バタフライソン2024のホームページ内データ送付ページ」からPDFもしくは写メ(画像)にてデータ送信してください。



この署名活動の詳細な主旨は右QRコードよりご覧ください(署名用紙ダウンロード可)

⇒

